

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791900014		
法人名	社会福祉法人 麗峰会		
事業所名	グループホームいえしま		
所在地	沖縄県国頭郡伊江村字東江前2337-2		
自己評価作成日	平成24年9月8日	評価結果市町村受理日	平成24年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4791900014-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4791900014-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成24年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症によって、自立した生活が困難になった利用者に対し、家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の日常生活の世話および心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を、利用者がその有する能力に応じ、可能な限り営むことができるよう支援している。</li> <li>・それぞれが思い思いに過ごせるよう、できる限り本人の希望に沿い支援を行うように努めている。</li> <li>・週1回の外出支援により、地域へ買い物や住民との交流のもと、住み慣れた環境での生活を継続できるようにすることを目指している。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開所1年の当事業者は、島のシンボルである伊江島タッチュウ(城山)と海を眺めることが出来る立地である。敷地内に同法人の特別養護老人ホームやデイサービス事業所等があり、合同での委員会活動や研修等が充実している。法人のバックアップがあり、看護師や理学療法士が定期的に事業所を訪れ、入居者の健康管理やADL低下予防に努めている。入居者全員が島内出身者であり、お互いが馴染みの関係である。小中学校の運動会に入居者、職員が参加したり、事業所の浜下り等の行事の際は、小中学校の児童、生徒の他、婦人会や社協から等多くのボランティアの協力が得られる等、地域との良好な関係が築かれている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・「愛、真心、誠意」にて、信頼される介護サービスを提供。「和顔愛語(穏やかな笑顔で、優しい言葉かけ)」で、思いやりのある温かい介護サービスを提供。 ・全体会議等にて、理念について確認し、日々職員一人ひとりが心掛けるよう努めている。	事業所理念は開設時に、管理者が作成し、職員会議に回り同意を得ている。理念を玄関に掲示し、職員会議時に理念について話し合う等職員間で共有している。しかし地域密着型サービスの意義を踏まえた理念作りには至っていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念作りに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ご家族や知人友人が、気軽に訪問され、日常的な付き合いが持てている。 ・週1回外出支援を行っており、地域への買い物や住民との交流を図っている。	地域の方から野菜の差し入れがある等日頃から交流がある。小中学校の運動会では、入居者、職員が参加し、競技にも参加している。小中学生のボランティアの受け入れ等地域との交流は活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・現在はご家族や運営推進委員会などが主であるが、役場職員や保健士と調整しており、今後、認知症についての勉強会等を開催する予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議にて話し合われた意見等を参考に、実際に試行、検討し、サービスに活かせるよう努めている。	運営推進会議は2か月毎偶数月に開催されている。行政、地域包括の保健師、区長等が参加し、事故報告等事業所の状況報告がされている。区長からのアドバイスで日課の中にラジオ体操を取り入れ、入居者の健康の維持に繋げている。	運営推進会議に入居者や家族も参加できるよう働きかけ、入居者や家族の意見をサービス向上に繋げていく取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議や電話等での連絡、報告、相談は行っている。	行政とは、窓口や電話等で認定更新時の連絡や生活保護世帯の入居相談等を行っている。行政主催の研修会の案内があり、事業所職員が参加する等協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束、虐待防止委員会が設置されており、定期的に会議を開き、身体拘束についての理解等に努めている。 ・玄関等の施錠について、日中はしていないが、防犯の関係上、夜間は行っている。	事業所として身体拘束をしない方針を明確にし、マニュアルが整備されている。法人内身体拘束委員会に担当職員が参加し、身体拘束をしない介護についての理解を深め、他職員へも会議録の回覧や職員会議時に周知を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・身体拘束、虐待防止委員会が設置されており、定期的に会議を開き、虐待防止についての理解等に努めている。 ・また、少しでも疑われる事があれば、必ず上司や他職員へ相談するようにしている。		

沖縄県(グループホーム いえしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・全体会議等にて、定期的に議題にあげ、勉強会や話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に重要事項説明書を用い、十分に説明を行い、理解、同意を得ている。 ・解約時には、その後の相談や不安等あれば、いつでも相談していただくよう声掛けを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・相談窓口を設けている。 ・意見、要望あった場合、運営推進会議等にて内容開示し、検討し反映できるよう努めている。 ・また、アンケート形式の用紙を玄関に設置している。	入居者は意見を積極的に伝える方が多く、「ドライブに行きたい」「朝パンが食べたい」等の意見が聞かれ対応している。家族会を年2回開催し全家族が参加している。家族から「行事の案内は早めに」等の意見があり、文書で連絡している。介護相談員を受け入れ気づきを運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・各会議にて、意見等を話し合う機会を設け、検討し反映させている。	管理者は月1回の職員会議時の他、日頃から職員の意見や要望を聞くように努めている。ベッドメイキングについて職員から意見があり、業務改善に繋げている。職員異動時は利用者に説明し、利用者も一緒に送別会を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・勤務等の状況把握に努め、それぞれが向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・年間計画を立て、各会議にて計画的に勉強会等を行っている。 ・また、その他法人外での研修等への職員受講の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・法人内での事業所間交流はあるが、他の同業者との定期的な交流はあまりないため、今後のネットワーク作りや交流機会を設け、サービスの質の向上に努めようと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前調査を行い、本人やご家族の希望や相談等を聴き取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・事前調査を行い、本人やご家族の希望や相談等を聴き取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・事前調査等にて聴き取った内容を踏まえ、必要であれば他サービスへの紹介等を含め行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家庭的な雰囲気築き、家事を一緒に行ったり、ケア等も含め、共に支えあう関係である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人の状況を報告、また思い等を代弁し、家族にも協力いただき、本人を共に支えあう関係である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・離島内という事もあり、家族や知人友人の面会も多く、同法人内での別事業所へ訪問する機会も多く、その事業所を利用されてる知人友人等の交流等も行っている。 ・また、週1回外出支援にて、地域へ出向き、交流を図っている。	産業祭りや運動会等、地域行事に積極的に参加し、友人、知人との関係継続の機会としている。ドライブ時は自宅周辺等馴染みの場所を訪れている。友人、知人の訪問も多く、隣接する同法人の施設に友人に会いに出向くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係の把握に努め、孤立しないよう一人ひとりが支え合える関係を築けるよう支援している。		

沖縄県(グループホーム いえしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用終了後も、互いの相談関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の思いを常に受け止め、可能な限り共に実現に向け取り組んでいる。	殆どの入居者が思いを言葉で表現するが、表情や仕草等からも思いを把握することもある。1日15日は仏壇に手を合わせたいと落ち着いた入居者に、家族と連携し帰宅出来るよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・事前調査での聴き取りや、その後も疑問等あれば、本人やご家族へ聴き取りし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・常日頃からの状態把握に努めるとともに、会議やミーティング等での一人ひとりの処遇等について、様々な視点からの意見を交換しあい、現状を総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアカンファレンスや、その時々において課題等が発見された場合に、それぞれの意見交換等も行い、本人のより良いケアの確立に努めている。	入居者、家族、職員、看護師等と話し合い、ケアプランを作成している。毎月の職員会議時には個別の入居者状況について話し合っている。カゴ作りの好きな入居者は、プランに反映し支援している。アセスメント表、モニタリング、評価等の記録が整備されていない。	アセスメントから評価までの一連の記録様式を整える事に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別の介護支援経過記録があり、情報の共有と課題発見や見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その時々に応じ、急な外出支援等、その他サービスについても相談し、柔軟に支援できるよう努めている。		

沖縄県(グループホーム いえしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・防災訓練の際には、消防団や地域との連携、協力を行っている。 ・ボランティアや実習生等も必要に応じ受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・離島内で、ほとんどの利用者が村内診療所の医師がかかりつけ医となっているが、本人や家族の希望を第一に適切な医療が受けられるよう努めている。	入居者全員、協力医療機関となっている島内診療所の医師がかかりつけ医である。受診は家族対応で口頭や書面で近況の情報提供、結果等は家族より口頭や直に電話で確認している。家族の希望があれば送迎も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々の状態観察、健康管理を行い、異常や変化ある際は、その都度、看護師へ報告、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入退院時の看護サマリーや電話等で連絡し、情報交換を行い、入院中のケアや退院後のケアについて等、相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・実例はないが、重度化に対する指針や看取り指針があり、それに沿って行っていく。	法人で重度化や終末期、看取りについての方針はあり、研修も法人の全体会で行われている。入居者、家族には状態変化時に説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・全体会議等にて、定期的に勉強会を開催し、実際に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災訓練を定期的に行い、消防団や地域の方の協力をいただき、全体で訓練を行っている。 ・また、災害時の対応マニュアル、またその勉強会を定期的に行い、災害時等の緊急な連携体制も構築している。	消防署やタクシー、ガス会社の協力下、年2回避難訓練を実施している。近隣住民に声かけているが参加はなく、夜間想定避難訓練も行われていない。火災、台風、地震津波の対応マニュアルも作成、11月の県広域地震・津波避難訓練の実施予定である。	入居者が昼夜を問わず安全に避難できるよう夜間を想定した避難訓練の実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念に基づいた対応を全職員心掛けている。</li> <li>・また、プライバシーに関する定期的な勉強会、職員指導等も適宜行っている。</li> </ul>	理念の「愛、真心、誠意」でおもてなしのサービスを心がけ、特に言葉かけについては会議や認知症の勉強会で話し合っている。排泄や入浴時のプライバシーについても勉強会しているが1か所ドアの開閉が故障していて解放したまま使用している現状もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己決定に係る勉強会を定期的に行っている。</li> <li>・本人の思いや希望が最大限反映されるよう努めている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その都度、本人の意向を確認し、それに合わせ支援を行っている。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・起床時、または入浴や着替えの際、整髪や服装の選択をしていただいている。</li> <li>・理容等についても、ボランティアで理容師に訪問していただき、希望あれば散髪等行っている。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嗜好調査を行い、本人の嗜好に沿うよう努めている。</li> <li>・利用者一人ひとり、出来る範囲での調理の下準備や後片付けをしている。</li> </ul>	食事は開設時に2年間は法人で調理する事を取り決めており、ご飯3食とスープ1食は事業所内で作り、入居者は野菜の下ごしらえや食器洗い、おやつ作りに参加している。栄養士が食事の様子を観察、又、入居者の希望も厨房会議に報告し献立に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理栄養士にて献立が作られている。</li> <li>・食事や水分の摂取量、また排泄等のチェックも行い、健康状態の維持に努めている。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食後、口腔ケアを実施している。</li> </ul>		

沖縄県(グループホーム いえしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄動作の範囲や排泄パターンを把握し、出来る限り本人が気持ちよく排泄が行えるよう支援している。	排泄チェック表で個別のパターン把握し、日中は全員トイレでの排泄を行っている。夜間はポータブルと本人が「眠りたい」との希望でオムツ使用する方もいる。失敗時には声かけ半身浴や清拭にて清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個々に応じ、水分摂取を促したりしている。 ・便秘に係る勉強会も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴の声掛けを行い、本人の希望に沿って支援を行っている。	入浴は隔日でシャワー浴、個別対応である。時間は夕食前までは可能で、前日に入浴していない入居者から声をかけ、異性介助時には本人に了解を得ている。好みのシャンプーやボディソープで入浴を楽しみ、整容室の鏡台には入居者の化粧ポーチが置かれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・本人の生活習慣、身体状態を把握し、時間帯によって声掛け等を行い、休息安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の内容確認、また症状の早期把握に努め、変化や異常の際は、看護師等への相談を行い、その情報等を医師や薬剤師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人ひとりの生活歴や残存能力を活かすよう努め、趣味活動や家事等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・随時とはいかないが、職員の数が多い場合等に、希望あれば外出を行っている。 ・また、定期的に週1回の外出支援を行っており、一人ひとりの行きたい場所等へ行けるよう努めている。	事業所周辺や法人の施設までの散歩、毎週木曜日は外出の日と決めドライブや買い物に出かけている。季節のユリ見学、浜下り、伊江マラソン応援と外出する機会が多い。「奥さんに会いに行く」、「自宅の仏壇にお祈りに行く」等計画に反映し支援している。	

沖縄県(グループホーム いえしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭所持は自由としているが、基本管理は行っていないため、管理能力のある方しか所持していない。ただし、希望があれば、買い物へいく場合などに使う分の小額等を預かり、管理すること等は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望があれば、状況に合わせ、その都度行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ベランダを開放的にし、出入りを自由に行っている。 ・季節ごとに共有スペースの装飾を変えている。 ・車椅子利用の方もスムーズに移動できるようスペースを確保している。	食堂兼多目的室には、畳間、ソファ、テーブル、空気洗浄機も設置している。テーブルの配置や座席は柔軟に変えている。壁には活動の写真や入居者が指導して学生のボランティアが描いた入居者全員の似顔絵、作品等が飾っており、テラスやベランダから伊江城山を眺めることもできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングでの座席の配慮や、畳間での作業スペースの確保、ベランダの開放を行い、それぞれ思い思いに過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた物などを活かし、本人が居心地良く過ごせるよう配慮している。 ・本人やご家族の写真等を飾り、自分のスペースとして居心地良く過ごせるようにしている。	居室入り口には、入居者の写真や名前入りの団扇で表示、ベットや洗面台が備え付けられている。家族の写真や作品が飾っており、使い慣れた毛布や枕等が持ち込まれている。季節の衣替えは家族と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・できる範囲などを把握し、無理のないよう行っていたり、混乱や失敗のないよう支援を行い、本人の自立した生活に努めている。		